

【 合志市 】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

本市では、合志市教育振興基本計画において「未来を拓く心豊かな人材をともに育む」を教育基本テーマとし、義務教育の充実に向けて「ICT機器を積極的に活用した教育活動の充実と多様な授業展開による学びの保障」を重点取組の一つに掲げている。

予測困難な社会を生きる子ども達が持続可能な社会の創り手となるために、学校では指導方法と指導体制の工夫改善を図るとともに、ICT機器を積極的・効果的に活用して、個に応じた指導と主体的・対話的で深い学びの充実を図ることを目標とする。

- タブレットPCなどのICTを効果的に活用した学習活動の充実（情報活用力、主体的学び、問題解決力、協働的学び、情報モラル）
- 多様なニーズに応え、学びを保障するオンライン授業の配信と工夫
- デジタル教科書の積極的活用と授業改善
- デジタルドリルを活用した家庭学習の充実

2. GIGA第1期の総括

本市においては、平成29年度より普通教室等の電子黒板を整備し、令和2年度には「GIGAスクール構想」に基づく1人1台端末及び学校の無線LAN環境を整備している。

また、授業支援ソフトやAIドリルなどのコンテンツを導入し、電子黒板と1人1台端末を共有させて授業を展開するとともに、ドリルを活用した家庭学習の充実を図るなど、積極的なICT活用と校務DXの推進を図るための取り組みを実施してきた。

しかし、それらICTの活用に関しては、学校間あるいは教職員間で取り組みの状況に差があるため、GIGA第2期に向けては全ての教職員が積極的にICTを活用できるよう、優良事例の紹介や各種研修の実施などの支援体制を充実させていく必要がある。

また、GIGA第1期では端末スペックの問題からプロファイルエラー等のトラブルが頻発しており、併せて落下事故等による端末の破損事案も数多く発生したことから、児童生徒の安定した運用環境が確保できなかった。

そのため、次期端末更新においては、OSやスペックの見直しを行い、破損防止のための保護カバーを導入するなど、適切な機器等の選定による安定した運用環境の確保が必要となる。

3. 1人1台端末の利活用方策

合志市では、GIGAスクール構想第2期において、端末を更新し児童生徒1人1台の端末環境を引き続き維持するとともに、その効果的な利用促進に向けて以下の取り組みを進めていくこととする。また、第1期で明らかになった課題を踏まえ、端末の利用や運用の質を向上させるための具体的な対策と改善策を検討していく。

（1）1人1台端末の積極的活用

積極的活用のための取り組みとして、本市ではICT支援員を4人配置（3校/人、1校

あたり月10日（3時間/日）し、機器操作の指導や各種システムやソフトウェアの活用に関するアドバイス等のサポートを行っている。今後も引き続き、ICT支援員によるサポート体制を維持し、1人1台端末の積極的な活用を支援していく。

その他、GIGA第1期で課題として挙げた学校間または教職員間での端末の活用に関する格差については、端末の操作方法や各種コンテンツの活用方法に関する研修をさらに充実させ、併せて他校等の先進的な優良事例を共有する等の取り組みを実施し、1人1台端末の積極的な活用を促進していく。

（2）個別最適・協働的な学びの充実

ICTを積極的かつ効果的に活用し、個に応じた指導と主体的・対話的で深い学びの充実を図るため、授業支援ソフトやドリル等学習コンテンツの整備を行っている。

GIGA第2期に向けては、より効果的に端末を活用でき、個別最適で協働的な学びの充実に繋げられるよう、各種コンテンツを再度見直し、必要に応じて新たなコンテンツを導入する等の整備を行っている。特に授業支援ソフトについては、ユーザーインターフェースに優れ、発表用のプレゼン資料などが作りやすく、双方向のやりとりに特化したものを整備していく。それにより、児童生徒が自分の考えをまとめ発表・表現する場面や、教職員と児童生徒がやりとりする場面において端末を有効活用できる体制を整えておく。

その他、学習コンテンツの一つとしてAI型ドリルを現在導入しており、児童生徒の特性や理解度に合わせて課題に取り組むことができている。これについては、今後も引き続き利用を継続していく。

（3）学びの保障

不登校の児童生徒や病気療養中、その他個々の実情に応じて、本市ではクラウドツールを用いた授業のオンライン配信を行っている。

また、学習ドリル等を用いた家庭学習の充実に取り組んでいるため、家庭にネットワーク環境・設備が整っていない世帯に対し、モバイルWi-Fiルーターの貸し出しを行っている。（就学援助対象世帯のみ）

これらの取り組みは今後も継続していき、充実した学びの機会を保障していく。